

時間割コード	G2B45203	開講年度	2026				
授業題目	芸術教養美術ゼミ					担当教員	大島 賢一 他
英文授業名	Basic Fine Arts Seminar						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・4時限	対象学生	全
講義室	共通教育 4 0 1 演習室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	大学D P						
	的確に情報を収集し、理解し、発信する力					⇔	美術についての基本的な知識、技能、考え方を身に付け、基本的デッサンなど造形表現ができるようになるとともに、美術教育などについての議論ができるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
(4)授業の概要	教育学部図画工作・美術教育コースに所属する美術教育や実技を専門とする教員による、オムニバス形式の授業である。 各担当教員の専門領域に関わる基本的な内容の講義、演習及び実践を伴った造形体験を行う。 各教員の担当回ごとに、レポートないし、課題作品の提出が課される。						
(5)授業のキーワード	図画工作 美術 美術教育 美術実技 デッサン グループワーク レポートのフィードバック						
(6)授業計画	第1回： 9月29日 初回ガイダンス（猪瀬昌延） 第2回：10月 6日 美術教育について考える グループ分けと課題提示（大島賢一） 第3回：10月13日 絵画基礎Ⅰ（鉛筆画）（中野良寿） 第4回：10月20日 絵画基礎Ⅱ（鉛筆画）（中野良寿） 第5回：10月27日 絵画基礎Ⅲ（水彩画）（中野良寿） 第6回：11月10日 絵画基礎Ⅳ（水彩画）（中野良寿） 第7回：11月17日 ランドアート基礎Ⅰ（中野良寿） 第8回：11月24日 ランドアート基礎Ⅱ（中野良寿） 第9回：12月 1日 美術教育について考える 発表（大島賢一）「レポート」 第10回：12月 8日 彫刻表現について（猪瀬昌延） 第11回：12月15日 彫刻における技法と素材（猪瀬昌延）「レポート」 第12回：12月22日 触覚の芸術としての彫刻表現（猪瀬昌延）「作品提出」 第13回： 1月 5日 ヘンリー・ムーアに学ぶ彫刻表現（猪瀬昌延）「レポート」 第14回： 1月12日 造るかたちと創られたかたち（猪瀬昌延）「レポート」 第15回： 1月19日 まとめ（猪瀬昌延）「授業アンケート」						
(7)成績評価の方法	各教員の課題の平均点で評価を行う。						
(8)成績評価の基準	担当教員が課す、レポートや課題の成績により評価する。例えばレポートにおける評価基準としては、i)問題の設定が適切、ii) 論述方法が適切、iii) 根拠のある論述、iv) 自分の見解の提示の4視点を設定する。これらを一定水準以上に満たし、かつ、教員を感心させる質のものであれば、「卓越している」、4項目を満たすのであれば、「かなり上にある」、3項目において一定水準以上であれば、「やや上にある」、3項目において標準的であれば、「水準である」と判断する。						
(9)事前事後学習の内容	事前の準備と事前事後の学習については、各担当教員の指示に従うこと。 ※60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	・定員25名を超過した場合は抽選となる。 ・レポートや作品課題等の課題が課されるので、意欲的にのぞむこと。 ・授業者及び講義の順序が入れ替わることがある。 ・各授業において指定する用具を各自準備すること。なお指定した用具を当日に忘れた場合は、欠席扱いになることがある。						
(11)質問,相談への対応	メールにて受け付ける。 アドレスは、minose@shinshu-u.ac.jp						
(12)授業への出席	授業後の制作が課され、次回授業での課題提出が求められることから、全ての授業に出席することが望ましい。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に掲載されている方法により補充を受けるための申請をおこなった上で、 授業担当教員に個別相談すること。						
【教科書】	指定しない						
【参考書】	指定しない						